

色麻町



清水田植踊り

『弥十郎どのや、目出度い春ではござらんか』

唄い上げの口上から始まる、色麻町清水地区に伝わる「田植踊り」は、その始まりこそ定かではないものの、同地区に所在する清水観音堂の由緒から、古くからあったとされています。農民の豊作を願う予祝行事が儀礼性を帯びて神事芸能となっていっただようです。

昭和初期までお正月に豊作を祈って、地区各戸を踊り巡ったようですが、戦時色が濃くなる中、神楽とともに特定の場所で踊るようになり、第二次大戦後一時途絶えました。その後昭和55年、伝統芸能の消滅を憂うを地区の有志により復活、平成5年には町の無形（民俗）文化財に指定され、今日まで伝承されてきました。

清水の田植踊りは、道化役の「弥十郎」1人に唄い手1人、花笠を付けた踊り手により構成され、太鼓・笛といった鳴り物はありません。

なお、加美町小野田地区月崎に、同じ流れを持つ田植え踊りが伝わっているようです。

